

看護ひろしま

広島県看護協会報

訪問看護出向事業

2023
June
No.249

6

【社会経済福祉委員会コーナー】
コロナ禍のストレスをみんなで話そう
入職前研修「Student Nurse」

【助産師コーナー】
アドバンス助産師への期待

【看護師コーナー】
第2回看護師職能研究会
看護職がイキイキと活躍するために
広島県看護協会事業紹介

「災害支援ナース派遣体制」が変わります
新型コロナウイルス集団接種の協力団体として感謝状授与

広報委員のおすすめ～早ワザおかず

【Topics】
認定看護管理者教育機関認定更新

【Information】
災害等見舞規程について
看護の日キャラクター「広島県かんごちゃん」誕生！
G7広島サミット～クリーンアップ運動に参加



Hiroshima Nursing Association
広島県看護協会

会員数/合計18,937人
(令和5年6月1日現在)

訪問看護 出向事業

広島県看護協会事業部

超高齢社会を迎え、医療・介護の需要が増加する中では、病院と訪問看護ステーションが連携して地域包括ケアシステムを推進していくことが求められています。

この事業は、病院の看護師が一定期間(3カ月程度)、病院に在籍したまま訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事しながら在宅療養支援能力の向上を目指します。

令和4年度には、2事例の出向があり、3月に報告会を開催しました。27施設から39名の参加があり、今年度の事業への参加を視野に、参加者は興味津々でした。



訪問看護出向事業に参加して

出向者の立場から

市立三次中央病院 副師長 (当時)
(現在：患者支援室師長)
永岡 奈穂子

私は令和4年11月から3カ月間、訪問看護ステーション「スクラム」へ出向しました。

地域包括ケア病棟での経験から、実際の在宅療養を知りたい、退院後に患者さんは自宅で安心して療養生活を送れているのだろうかという思いが動機でした。

出向した3カ月の間に200件弱の訪問看護を行いました。皆さん様々な疾患や障害を抱えながらも在宅で充実した生活をしており、ほとんどの方が「やっぱり家がいいよ」とおっしゃっていたのが印象的でした。入院を機に施設や療養型病院へ入られる方も多くいますが、実際に訪問看護をしてみて、多くの方が訪問看護をはじめ様々な介護サービスを使いながら、在宅療養ができる可能性を感じることができました。そして在宅療養看護の実際を知ることで、自分たちが病院で行っている看護が患者さんの在宅生活へ繋がっているということを強く感じる事ができました。



訪問看護出向事業の受け入れを終えて

出向受入の立場から

三次地区医師会
訪問看護ステーション「スクラム」所長
福間 かおる

令和4年11月から3カ月間、スクラムの職員として訪問看護業務に従事していただきました。できるだけ病院では経験できないことを中心に、限られた資源や衛生材料を使っでの処置や在宅での看取りにも立ち会ってもらいました。雪が降る中、まず雪かきをしてからの訪問もありました。実際に訪問する中で、いろいろな家族背景があり、いろいろな環境があるということ、また三次市の地域の特色やサービスの現状の把握、インフォーマルなサービスの理解もしていただけたのではないかと思います。医療的な処置があっても、どんな状況でも、患者や家族が望めば様々なサービスを使って自宅で過ごすことができると、訪問を通して実感してもらえたのではないのでしょうか。地域に出てみてわかることがたくさんあります。この出向事業での学びを、今後の支援に活かしていただきたいと思っています。



「スクラム」職員一同 (前列左から2番目が指導担当の瀬戸さん、3番目が出向者の永岡さんで、その隣前列右から2番目が福間さん)



訪問前にまずは雪かきから



自宅で過ごすを当たり前

出向者の立場から

マツダ病院 主任看護師
宮迫 ふみえ

令和4年10月から3カ月間、安芸地区医師会訪問看護ステーションへ出向しました。多くの学びの中で特に印象的だったことは①医療依存度の高い利用者の在宅生活に即した看護、ケアの実践を経験したこと②他病院の退院前カンファレンスに在宅側として参加したことです。退院調整看護師を担当している私にとって貴重な経験となりました。また退院直後、病状は改善していても体力が消耗している利用者を目の当たりにし、退院調整の重要性を感じました。病院側の情報と在宅側の生活の視点に沿ったケアを共有し密に連携することで看護の幅はもっと広がり、医療依存度の高い患者や家族も安心して療養できると感じました。「自宅で過ごす」が当たり前となるよう、病院スタッフへこの経験を伝え、在宅スタッフとこれからも連携を大切にしていきたいと思えます。



連携はもっと良くなる

出向受入の立場から

安芸地区医師会
訪問看護ステーション 所長
金行 由美

出向事業は、『収益につながる単独訪問』を目的とすることで、研修とは異なり、職員の育成視点で双方が取り組みます。1カ月目は同行訪問で多くの在宅療養者の生活に触れ、2カ月目は単独訪問、新規利用者の担当、カバー訪問や緊急訪問も対応していただきました。

唯一不安だった利用者の受け入れについても、事前にお知らせ文を配付したことで受け入れ良好で、中には「うちにはいつ来てくれる?」と待っている利用者もいました。

また、事業参加から終了まで適切な時期に看護協会・出向元・当事業所3者が顔を合わせて話し合いが行われ、「不安」「困る」は感じませんでした。同時に管理者同士の意見交換・情報共有の場となりました。

当初、十分に連携できているのに必要なかなぁと思いましたが、連携はもっと良くなる、ということを実感しています。



マツダ病院、安芸地区医師会
訪問看護ステーションの皆さん
下段右が金行さん、
下段中央が宮迫さん

TOPICS

認定看護管理者教育機関認定更新

看護生涯教育・研究センター 認定教育部 部長 下垣内 千恵美

認定看護管理者教育機関は、日本看護協会から認定を受けた後も7年ごとに更新審査を受けることになっています。令和4年度はその受審年となりました。

審査では書類の確認やWebによる視察が行われ、

無事に令和5年1月23日付けで更新の認定をいただくことができました。

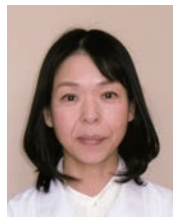
今後は審査の過程で制度委員会からいただいたご意見を参考に、皆様のお力添えをいただきながら一層充実した教育機関となるよう改善を重ねてまいります。

第2回 リスクマネジャー 意見交換会

コロナ禍のストレスを みんなで話そう

社会経済福祉委員会
水山 志保
(広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院)

令和5年1月26日に第2回リスクマネジャー意見交換会をオンラインで開催しました。「コロナ禍におけるリスク



隅田 愛先生

マネジャーの「ストレスマネジメント」をテーマに、国家公務員共済組合連合会 呉共済病院 臨床心理科 隅田愛先生に

より、医療安全におけるストレスマネジメントの必要性、コロナ禍で生じる看護職のストレスへの対処方法について講演していただきました。その後、グループで意見交換し、「自分自身のストレスやコーピング行動について知ることが重要である」「スタッフのストレスマネジメントを行う上で、思いを聴くことを大事にしている」などの

意見がありました。終了後アンケートは、悩みを共有でき、他施設でのストレス対応を知ることができたとの意見が多くありました。意見交換は思いを話すことで自身のストレス軽減にもつながり有意義であったと感じました。今後も、医療安全管理者の交流ができる意見交換会を開催していきたいと思えます。

入職前研修

「Student Nurse」

寺本 辰美
(総合病院 庄原赤十字病院 看護副部長)

Student Nurseは、2020年度末に看護協会で開催された研修会「コロナ禍における新人教育の体制整備」で、就職前にアルバイト雇用している施設があり、その先駆的な取り組みにヒントを得て、2021年春より開始しました。目的は、コロナ禍で臨地実習が大幅に減少したことによる、看護実践力の補完と社会人への不安軽減です。採用内定者を「Student Nurse=以後SN」と命名し、入職前の3月に本人が希望する期間アルバイト雇用します。SNは、4月配属予定の部署で、看護管理者と共に目標・スケジュールを立案し、看護実践の見学や看護師と一緒に実践をします。1日の終わりには振り返りを行い不安の軽減、学習支援をします。SNからは「患者様の全体像を理解して必要な看護を実践することの大切さを学んだ」「病棟の雰囲気や流れが分かり、ス

タッフの方との関係性も築けた」「スタッフの方と一緒に患者様と関わることで不安が軽減した」と好評です。新人研修の職場適応は良好で、新人看護師の独り立ちは、コロナ禍の影響を感じず例年通り成長しています。今年で3シーズン目の実施となり様々な効果を実感しています。



左がStudent Nurse

Student Nurse (SN=アルバイトによる入職前研修者) 実施のポイント

- ※ 研修の開始について (3月からスタート)
 - 参加の有無/開始日は任意
 - ※注 4月からの業務・職場環境にスムーズに移行する為には、早期からのアルバイト開始が望ましい
 - 雇用形態はパート看護補助者
 - 開始勤務日数は自由に決定し、勤務は平日の日勤のみ
- ※ 勤務は4月からの配属予定部署でスタート・計画立案
 - 当該部署の看護師長・係長と気軽な面談を実施
 - 学生時代を振り返り、伸ばしたい事、学びたい事、経験したい事を明確にする
 - なりたい自分の目標を明確にする
 - SNの目的達成に向けて目標やスケジュールと一緒に立てる
- ※ 研修方法
 - 看護師に同行し、看護実践を見学及び一緒に実施する
 - この間の担当看護師の人は限定せず、その日の目的を優先する
 - 担当看護師は、行為の意味や根拠を丁寧に語る
- ※ 「Student Nurse Diary」を用いたリフレクション
 - 担当者は、個々の不安の解消・学習支援を行う
- ※ アルバイト期間中 (国試発表後) に、全員でまとめの会を開催する
 - Student Nurse期間での学びを共有し、4月に繋げる

助産師コーナー

アドバンス助産師への期待

助産師職能委員会

阿部 優子

(地方独立行政法人広島市立病院機構
広島市立北部医療センター安佐市民病院)



現代において妊娠・出産におけるニーズは多様化し、また女性の生涯にわたる健康問題をサポートする助産師には高い実践能力が求められています。助産師は誰でも、質の高い助

産ケアを提供することができます。その中でもアドバンス助産師は最新の知識を有し、標準的な助産ケアを自律して実践できる能力があることを客観的に評価された専門家です。2023年

CLoCMiPレベルⅢ認証スケジュールは申請期間8月1日～8月20日となっています。女性やその家族がケアを安心して選ぶことができるよう、認証申請・更新をしていきましょう。

看護師コーナー

第2回
看護師職能
研究会

医療従事者が安心して働ける職場づくり

看護師職能委員会

荒木 美香

(総合病院 庄原赤十字病院)

令和4年12月10日に、第2回看護師職能研究会をオンラインで開催し、I・II領域の看護師27名の参加がありました。関西医科大学看護学部看護学研究科 三木明子教授より、「暴力事件から医療従事者の安全を考える～医療・在宅の現場での暴力・ハラスメントの対策～」をテーマに講演いただきました。暴力被害の実態をデータで示していただき、精神的暴力が最も多く、年々増加している事を知り、対策方法を具体的に提示していただき、実践に取り入れやすい学びが得られました。

その後、様々な施設の参加者とグループワークを行い、同じ悩みを抱えている現状を共有でき、他施設の対策を聞き「良い取り組みについて、自施設の対策の参考にできそう」や、「被害者となったスタッフへの声かけや接し方について、使ってはいけない言葉を知ることができ、二次被害を回避できる」といった意見が聞かれ、有意義なグループワークとなりました。

管理者が組織として暴力・ハラスメントの対応マニュアルや、発生時の相談ルートの整備、暴力防止に向けた

明確な方針の提示を行っていく事も、医療従事者の安全を守る対策に繋がると考え、体制を整備していく必要性を感じる研究会となりました。



訪問看護・介護事業所 必携！暴力・ハラスメントの予防と対応 一スタッフが安心・安全に働くために
三木明子 監修・著
全国訪問看護事業協会 編著 メディカ出版 (2019年)

看護職がイキイキと活躍するために

看護師職能委員会

西中 カフミ

(広島大学病院)



看護師職能委員会では、変化する社会環境に適応し、看護職がイキイキと安心して働き続けられるよう、活動しております。准看護師研修では、いち早くWeb形式を取り入れ、限られた時

間で多くの情報提供と意見交換を行い、キャリアアップへの動機づけを行っています。毎月の委員会では、専門職として取り組む課題を検討し、会員の皆様それぞれの立場で深められ

るよう、年2回看護師職能研究会を企画し開催しています。

これからも皆様と共に成長していただける委員会活動となるよう努力してまいります。

「地域の中小医療機関・福祉施設等における感染症対応力向上事業」について

事業担当 上田 孝子・田邊 直美

令和4年度の新規事業として「地域の中小医療機関・福祉施設等における平時からの感染症への対応力向上」を目指し、感染管理認定看護師等の派遣に係る体制づくりに向けた取り組みを始めました。

事業を進めるにあたり、6名（感染管理認定看護師、施設看護管理者、広島県看護行政担当者）の構成員から成る検討委員会を設置しました。令和4年度はモデル事業として施設訪問を4カ所（介護老人保健施設、医療機関、特別養護老人ホーム、障害者施

設）、集合研修を廿日市市、福山市の2地域で実施しました。

施設訪問では、感染管理認定看護師が施設内のラウンドを実施し施設の特徴を踏まえた感染対策について指導や助言を行うことで、取り組むべき課題が明確になりました。講師からは、デブリーフィングの場を設けることで心理的な労いや積極的な意見交換ができ、熱心さが感じられた、と感想がありました。

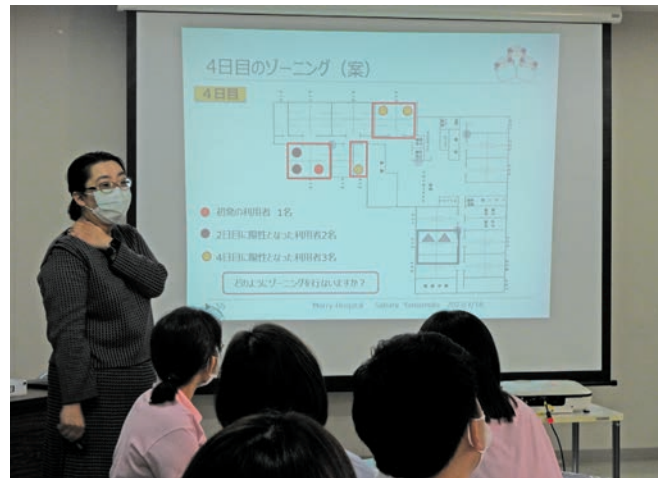
また、多職種を対象とした集合研修では、施設全体で感染対策に取り組

む重要性を理解できるよう講義や演習を行い、それぞれ成果を得ることができました。講師からは、高齢者施設の職員等は感染管理を学ぶ機会が少なく集合研修は定期的を実施することが望ましい、といった意見が出ました。

今年度は地域の中小医療機関・福祉施設等の感染症対応力向上を支援するために関連機関等の協力を得ながら、必要となる体制づくりをさらに進めたいと考えています。



PPE着用の様子



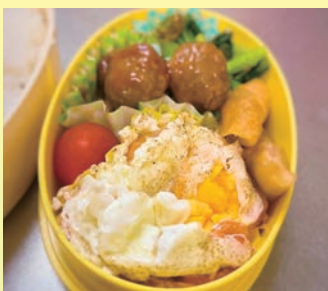
集合研修の様子



広報委員のおすすめ
早ワザおかず

レンジ de ハムエッグ

広報委員 谷増 えり
(医療法人社団仁鷹会 たかの橋中央病院)



新生活が始まり慣れないお弁当を作るとなると一苦労ですね。フライパンを出すのも億劫で時間がないときに試してほしい一品！レンジを使ったハムエッグを紹介します。小さい器に紙のカップをセットしてハムを敷きます。卵を割り入れ黄身に爪楊枝で数カ所穴を開け塩胡椒で味付けをしたらレンジでチン!!我が家では500wで50秒を2回がベスト!!これを目安にご家庭のレンジを調整して試してみてください。簡単時短でお弁当のスペースも埋まるのでオススメです!!4等分に切って入れると食べやすいですよ。一度試してみてくださいいかがですか？

重要!

「災害支援ナース派遣体制」が変わります

感染症法及び医療法改正に伴い、災害と感染症に対応する看護師職員の養成・派遣・確保の仕組みが一体化されます。(2024年4月1日施行)

これを受けて日本看護協会は、看護協会独自の仕組みで行っていた災害時の看護支援活動から、国主導による新たな応援派遣体制を構築していくことになりました。

研修内容は、以下のような構成になります。

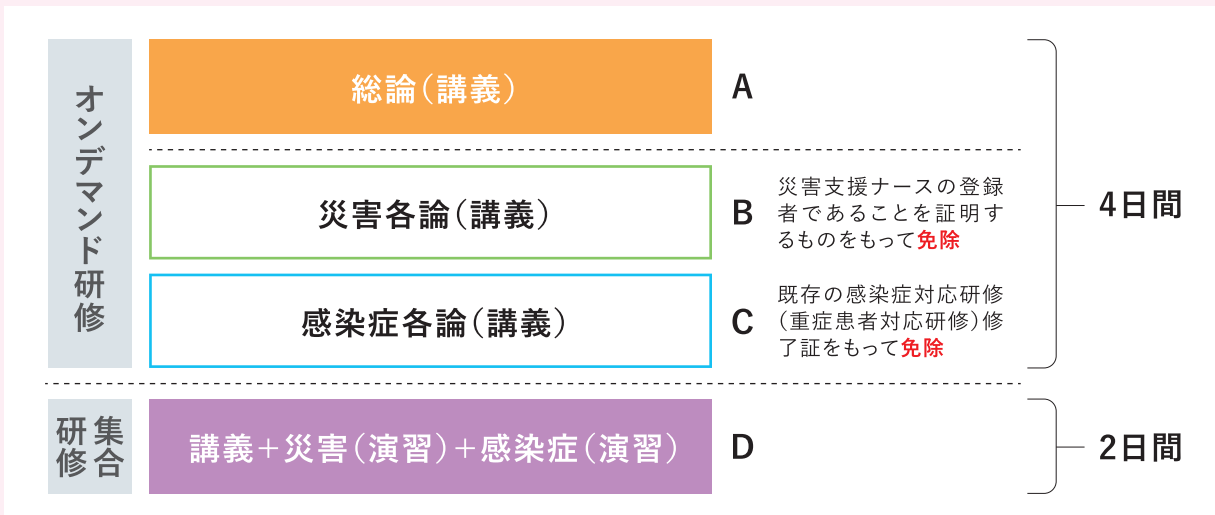
受講料は無料です。

現在、研修プログラムの内容について一部調整中です。

現行の 災害支援ナース について

- ・ 現行の災害支援ナース育成研修は2022年度をもって終了。
- ・ 移行期間（3年間）中に追加の研修受講が必要。

※災害支援ナース登録者には、研修要項が決定次第、管理者を通じてお知らせします。
※広島県看護協会では、7月13日開催の「令和5年度 看護管理者研究会【災害編】」で新たな災害支援ナースの仕組みについて説明を行う予定です。災害支援ナースが在籍している施設の方をはじめ、災害支援ナースもぜひご出席ください。
※「日本看護協会ニュース3月号Vol.661」をご参照ください。



新型コロナウイルスの集団接種の実施協力団体に対する感謝状を贈呈されました

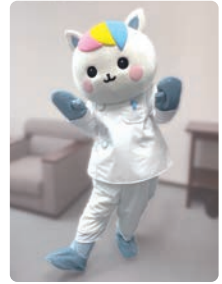
(令和5年4月20日(木))



広島県かんどちゃん誕生!

看護の日キャラクター「かんどちゃん」の47都道府県バージョンが誕生しました。広島県バージョンはレモンモチーフです。

これから
よろしくお願
い
します♪



着ぐるみもできました

*「看護の日キャラクターかんどちゃん」の画像使用については日本看護協会のHPをご確認ください。

公益社団法人広島県看護協会 災害等見舞規程について



会員が主たる居住地において火災や風水害、震災等により被災した場合に、看護協会から見舞金が贈られます。

詳細は広島県看護協会ホームページ

入会のご案内 → 会員特典 → 災害等見舞制度 をご参照ください。

罹災見舞金

- ① 全焼、又は全壊
20,000円
- ② 半焼、又は半壊・傾斜
10,000円
- ③ 床上・床下浸水
10,000円

病氣見舞金

- ① 会員が病氣により1カ月以上入院加療した場合
10,000円
- ② 会務中、傷害を受け10日以上加療の場合
10,000円

死亡弔慰金

会員が死亡した場合
弔電及び弔慰金
20,000円

■ 問い合わせ先

総務部 (082) 293-3362

G7広島サミット クリーンアップ運動に参加しました!

広島サミット県民会議がサミット来訪者へのおもてなし機運の醸成のために県内の企業や団体等に呼びかけているクリーンアップ運動に本会はお隣の(一財)広島県環境保健協会と共同で5月9日に参加しました。本会からは山本会長をはじめ16名が参加し、「クリーンアップ運動」と書かれたのぼりを掲げながら横川新橋から中広大橋の間の天満川遊歩道周辺の清掃活動を実施しました。



広報委員の
元気の源

白衣



食～ひろしまが育む風景～ 表紙の写真／太田川の鮎

太田川は広島県の冠山(廿日市市)を源流として蛇行を繰り返しながら広島市内を流れ、やがて瀬戸内海に流れ込む一級河川です。その流域でこの時期とれるのが鮎。秋に川の下流域でふ化した仔魚はすぐに海へ下り、翌春まで海で過ごした後、川へ遡上して縄張りを形成し、石の表面についたコケを食べ成長します。川を遡ったり、降ったりと忙しい鮎ですが、日本では古くから食べられてきた魚です。私たち看護師も様々な場所で忙しく働いています。私たちが元気に働くためには身体が資本です。大地の栄養をしっかりと吸収した旬のものを食べ明日の看護へ繋げていきましょう。(谷増 えり)

広島県看護協会報 看護ひろしま

6月号/249号
発行 2023年6月
発行所 公益社団法人 広島県看護協会
〒730-0803
広島市中区広瀬北町9-2
TEL:082-293-3362
発行責任者 山本 恭子

編集 広報委員会
制作 有限会社バル